

**2015 年度 サギタリウス・チャレンジ(チャレンジ部門)
企画実施報告書**

タイトル	【布わらじと+αで】思わず寄り道したくなる、ほっとする里・静原	
実施日	2015年 4月 1日(水) ~ 2016年 3月 31日(木)	
代表者	学生証番号	氏名
	225515	本田 彩
企画概要	<p>企画内容・主旨は初期から活動と共に変わっています。</p> <p>【初期企画】 静原町は、古城跡やきれいに整備された道路で一部に知られてはいますが、普段はあまり知られることのない自然豊かな小さな町です。静原町の魅力を伝えるため、①寄り道マップの作成、②点在している看板の内容をまとめる、③布わらじなどの静原特産物(工芸品)を作り、発信していきます。(サギチャレ採択企画のHPより抜粋)</p> <p>【中期企画】 掲げていた『お手伝い型まちおこし』『橋本さんのお手伝い』『ハイキングコース等の整備』『農作物、布わらじなどの特産物を作る産業興隆』はそのままに、次の活動を追加しました。</p> <p>① 限界集落化が進む静原の町を、京都産業大学の学生が手伝いとして地域に入っていくことで活気づけていく。</p> <p>② 静原の子供たちを対象にしたイベント、産業の活性化、地域貢献の催しなど、様々な方面からアプローチする。</p> <p>③ 自然豊かでほっとする里を作り、多くの人々に静原を知ってもらうだけでなく、静原に深く関わっていく中で、いずれは静原に貢献できる大きな産業を作る。というコンセプトを新たに見つけました。</p> <p>【終期企画】 コンセプトや指針よりも、具体的な行動に移り活動を行いました。中間報告会で「手伝うだけで次年度につながるとは思えない」というアドバイスもあり、次年度に向けたステップアップとして具体的行動をこちら側からも起こしていくことにしました。</p> <p>協力者側(NPO 法人『洛北静原の里』副理事長である橋本さん、静原小学校)とも交流を深めていたので、避けていた『企画提案』を行いました。</p> <p>① ひたすら顔を売る：朝市、単発のお手伝い、小学校、農業手伝い</p> <p>② ひたすら手伝って次に繋げる：同上</p> <p>③ 仲良くなる：NPO 事業の手伝い(獣用フェンス張り)</p> <p>③ 貢献して次に繋げる：販売イベント、小学校との企画(天文台ツアー、留学生出張授業)</p> <p>④ 企画をもとに自分たちのできることを少しずつ行う：小学校との企画、広報企画</p>	

【活動実績】

① 静原小学校：

- ・5月からコンタクトを取り(橋本さんの紹介で林校長に会う)、8月から単発で訪問。
9月から学生ボランティアとして週3で定期的に活動を開始。
授業補助と中休みの遊び相手としてボランティア中。
次年度も教職課程などの学生、メンバーと繋いで継続させていく予定。
- ・7月23日、本学にて天文台ツアーを設定。天文台職員による引率。
4年生と引率の先生、橋本さん夫妻にお越し頂いた。
- ・12月21日、天文台ツアー開催。当団体が小学校との連絡や天文台とのMT、
コンテンツ制作、プログラム構成、司会進行を行いました。
本番一週間前に、日程の本決定通知が天文台にされていなかったことが天文台との
ミーティングにて発覚。そのことで小学校と開催できないのかという事態が発生しま
した。後日天文台と小学校と当団体でミーティング。開催決定。
- ・10月、国際交流センターと小学校を繋ぎ、11月に留学生による静原小学校での
英語の授業補助が定期的に開催されました。

② お手伝い型まちおこし：

【橋本さんの農業の手伝い】

- ・コスモス種まき、稲刈り、豆の苗植え、雑草抜き、にんにくの収穫、芋掘り、大豆収穫
など。農業の手伝いをしていく内に、自分たちもやった方がいいということで、
橋本さんの畑の一角を貸して頂きました。

【静原農園】

- ・橋本さんの畑の一角で、作物を収穫し、商品化するべく自分たちで農作業を行って
います。土づくり、肥料、苗植え、種まき、植え替え、水やり、マルチ等々。
- ・植えたもの：水菜、サニーレタス、白菜、コカブ、玉ねぎ、無臭ニンニク、
ローズマリー
- ・収穫したもの：水菜、サニーレタス、白菜

【単発のお手伝い】

- ・訪問するたびに次何するかを聞いていたので、行くたびに来週の予定が決まります。
- ・日曜の朝市→大原里の駅に搬入手伝い(売り物に値札貼り、運搬)。
台風処理(川の清掃活動)。薪作り。焼き芋作り。雑草抜き。川の石運び。POP制作。
NPO事業、獣用フェンス張りの手伝い。
- ・11月7日、京の農林秋祭りにて売り子・会計・設営・撤収。
- ・11月22日、朝市感謝DAYにて売り子・会計・広報・焼き芋作り・運搬・撤収。
- ・11月28・29日、農林水産フェスティバルにて売り子・広報・運搬・撤収。
- ・『なくても困らないけれどあったら助かる手伝い』を狙って行いました。

③ 企画など

【活動発信】

SNSは更新頻度を高くし、変遷する企画内容を常に情報発信するように心がけました。

活動状況

	<p>春：ラジオ 夏から：Facebook、Twitter 秋から：ニュースレター(2回発行。掲示)</p> <p>【布わらじ編んでみよう会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月、橋本さん宅にて開催。初講習のため、本田1名、住民2名での小規模開催。 <p>【静原の認知度・活動興味のアンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丸善店内にて当団体の活動の掲示。アンケートに協力で太巻き(一切れ)と交換。先着100名。前日に決裁が下りたので広報が間に合っていなかったけれど、すべて配布できました。
<p>考 察</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・『親戚・近所付き合いの多い(顔を知っている=安心・信頼感)、地域住民の結びつきの強い(余所者に敏感)、高齢の方の多い(大きな変化を好まない)』小さな町。 →だからこそ、『じわじわ近づいていく』、『仲良くなるまで企画を持ち込まない』、『押し付けがましくないお手伝い型まちおこし』戦略を取りました。 ①溶け込もう ②手伝って役に立とう ③私たちだからこそできることをしよう ④継続して関わっていこう <ul style="list-style-type: none"> ・今後の課題はメンバー獲得と、静原農園の拡大、商品開発、朝市の広報、布わらじによるわらじ編みの伝統継承など
<p>所 感</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・静原でミーティングすることもあり、朝市に行く度に、うどんやカレーや鍋をご馳走になりました。春から足繁くお手伝いに通うことで、秋には交流の深まりを感じました。下地作りには時間を掛けることをお勧めします。 ・橋本さん以外からも声を掛けられるようになり、朝市の商品を貰うなど、鹿の解体も見学。NPO事業を手伝ってから、『京都産業大学の学生が静原に手伝いに来ている』ことが少し広がりました。 ・小学校を通じて、生徒、保護者、自転車で静原を移動するとき、バス待ちのとき、住民の方から声を掛けられるようになりました。 ・静原農園に橋本さんから小さな物置を貰い、当団体の農具を収納するスペースを提供して頂きました。 ・紹介が紹介を呼ぶことが、よく実感できました。行政にも顔の広い地域住民の橋本さんに協力してもらい、静原小学校の校長を紹介してもらうことができました。神山天文台のツアーも、当団体が本学の学生だから実現できたことです。 ・静原小学校では、資格を生かしてそろばんの指導補助などもしました。役に立てそうなことがあれば、自分たちから積極的に提案することが大事です。